

平成30年度（第2回）久留米市食料・農業・農村政策審議会 議事録

日時：平成30年11月16日（金）

場所：職員会館メルクス 2F 会議室

出席者：福田会長、吉永副会長、森委員、松田委員、白石委員、高尾委員、米倉委員
大坪委員、市川委員、池田委員、矢次委員、田中委員、高木委員

以上13名

（欠席者：野村委員、吉田委員、中野委員、宇佐川委員）

事務局：農政部 山口部長、半田次長、農政部農政課 堤課長、林田主幹、
田川課長補佐、松延主査、長野、生産流通課 角課長、
みどりの里づくり推進課 中山課長、古賀主幹、農村整備課 田中課長、田中主幹、
中央卸売市場 白谷補佐 農業委員会事務局 横溝局長
田主丸産振 右田課長 北野産振 本村課長 城島産振 大坪課長 三潴産振 塚本課長

傍聴者：1名

次第：1. 会長挨拶

2. 協議事項

- (1) 国による生産調整の廃止について
- (2) 新規就農者の確保・育成について
- (3) 久留米つつじ等の振興について
- (4) 農業用ため池の現状等について
- (5) テレビCM等を活用した農業都市久留米のPRについて
- (6) 農業委員会法改正の全体像と現在の活動について

3. 情報提供

4. その他

1. 会長挨拶

福田会長	挨拶
------	----

2. 協議事項

(1) 国による生産調整の廃止について

事務局	【配布資料の説明】
A委員	集落営農法人が農地を取得する場合、利用権の調整について何か課題はあるか。
事務局	法人化した場合、所有権を設定して、農地を確保するのが基本だが、農地を手放したくない農家も多い。 その様な場合、所有権設定ではなく、賃貸借契約を結ぶ等により、利用権を確保している法人組織があるので、今年度は、そういったところに視察に行つて勉強していきたいと考えている。

B委員	国からの交付金が廃止されたが、県や市から交付金は出るのか。
事務局	国からの米の直接支払交付金（10a あたり 7,500 円）は廃止になったが、麦・大豆・飼料作物などの転作作物に対しては、水田活用の直接支払交付金として、今年度も交付金の支払いが予定されている。

(2) 新規就農者の確保と育成について

事務局	【配布資料の説明】
日本政策金融公庫	【平成 30 年度認定新規就農者フォローアップ調査結果の報告】
C委員	農業実践研修事業の実績で、研修品目がイチゴに集中しているのは、なぜか。
事務局	<p>最近の傾向としては、非農家からイチゴ農家への参入が非常に増えている。初期投資は必要だが技術を身につければ、収量が増え、所得が安定するということが魅力、あわせて「あまおう」というブランド力も非常に強いため、研修品目としてイチゴを選択する者が多い。</p> <p>イチゴ以外では、露地野菜での新規就農者が依然として多い。こういった方々は、地域で生産量の多い農家から技術を継承し、自身で就農しながら技術を学んでいくという方が多い。</p>
D委員	<p>最近では、非農家からの新規就農者が多く、新規就農者の育成、サポートについては非常に大きな課題である。</p> <p>就農して2～3年しても経営が安定していない新規就農者の状況をみると、技術は年々ついてきているが人手不足で、収穫が出来ないというのが理由の一つであった。</p> <p>最初の計画の段階で詰めた計画をしておくことが大事であり、就農する上で、初期投資が大きいハウスなどは、中古のものを探したり、技術習得の研修期間は長く設定しておくなど、そういった面に注意しながら指導していきたい。</p>
E委員	労働力不足の問題が報道されているが、久留米市として海外からの人材を視野に入れているのか
事務局	<p>労働力不足は、最近よく耳にするが、外国人実習生も見つかりにくく、なかなか予定通り入ってこない状況にある。</p> <p>地元雇用が一番よいが、外国人の労働力は必要不可欠になってきている。外国人ではないが、県のマッチングセンターを利用した雇用就農の推進により、労働力にもつなげている。</p> <p>久留米市としては、国の動向見ながら情報収集をしていきたい。</p>
F委員	<p>就農して、一番困ったのが栽培技術の面で、はじめたばかりで何もわからず、周囲の農業者にも聞きづらい状況であった。</p> <p>また、水田を乾田化することによって生産効率が上がるのだが、非農家の新規就農者の場合、大型トラクターを持っていないので、</p>

	<p>作業委託をお願いできるオペレーター等を紹介していただけるとありがたい。</p> <p>新規就農者への指導については、関係団体に、5年後10年後を見据え、もう少しきめ細やかな指導をお願いしたい。</p>
G委員	<p>就農している独身の青年が、なかなか結婚出来なくて農業を諦めようとしている。</p> <p>婚活パーティなど出会いの場を作ってほしい。</p>
事務局	<p>農業者の婚活については、JA青年部でも活動している。また県、久留米市でも婚活支援の事業をしているので、利用いただけるようにJAと共に支援していきたい。</p>
H委員	<p>農業実践研修事業について、イチゴでの研修が多いとのことだが、就農希望者の要望等もあると思うが、研修先の選定や決定はどのように行っているのか？</p> <p>また、研修期間や計画等はどのようにしているのか？</p>
事務局	<p>研修先の選定については、就農したい地域や、技術力の高い方などをJA、普及指導センターと連携をとりながら選定している。</p> <p>また、農業実践研修事業は、農業次世代人材投資事業の準備型を受けけるのを要件にしているため、その時点で研修期間や計画等を立てている。</p>

(3) 久留米つつじ等の振興について

事務局	【配布資料の説明】
E委員	<p>公共事業の整備では、植栽に、久留米つつじをあまり見ることがない。関連部局と連携をとって、つつじの振興に努めてもらいたい。</p>

(4) 農業用ため池の現状等について

事務局	【配布資料の説明】
福田会長	<p>ため池は、市民には馴染みが薄いですが、大事なインフラである。着実に事業を進めてもらいたい。</p>

(5) テレビCM等を活用した農業都市久留米のPRについて

事務局	【配布資料の説明】
F委員	<p>JA青年部でも1分間動画を毎年制作しており、今年は県大会で最優秀賞を受賞し、九州大会に出場した。しかし、なかなか見ってもらう機会が少ないので、市と連携して、多くの人に見てもらえる環境を作ってもらいたい。</p>
事務局	<p>市としても、動画の再生回数が現在1,800件とまだまだ少ないので、より多くの人に見ていただけるよう、連携できるものは連携して、情報発信の強化につなげていきたい。</p>
C委員	<p>信愛短期大学が制作した「くるめさん ぐるめさん」のダンス</p>

	を、他部局のイベント等と連携して紹介していくことで、踊りを真似したいという人も増え、より効果的なPRができるのではないかと。
事務局	12月22日に六角堂広場で開催されるイベントでも踊りを披露される予定である。 今後も様々なイベント等へ積極的に参加していくと伺っている。
B委員	市場では、久留米野菜を多くの人に知ってもらいたいという思いで、久留米大学やスーパーのバイヤー等と連携して、くるめ野菜のシールを作った。 イベント等でシールを貼った野菜を配ってPRするなどの取り組みを行っている。

(6) 農業委員会法改正の全体像と現在の活動について

事務局	【配布資料の説明】
B委員	推進委員は、誰がどのようにしてなれるのか
事務局	久留米市内在住で、農地利用の最適化に熱意・識見の有る人を地域の農業者の中から、地域推薦や団体推薦、個人推薦、立候補等により農業委員会が決定し、現在29名の推進委員がいる。

3. 情報提供

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ TPP、日欧 EPA、日米関税協議について ・ 外国人労働者の受入拡大 ・ 市場法改正について ・ 人権尊重週間の紹介 ・ 公開講座開催紹介 ・ 耳納の市の紹介
-----	---

4. その他

事務局	審議会委員の2年間の任期満了に伴うお礼
-----	---------------------